

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成30年度第4回）

1. 日 時 平成31年3月15日（金）13:00～14:57
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 池上委員，小笠原委員，工藤委員，久保田委員，坂井委員，高原委員，松岡委員（五十音順）  
学長，理事（教育・財務担当），理事（研究・産学連携担当），  
理事（総務・労務担当），  
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 近藤監事，林田監事，副学長（学生・附属図書館担当），  
副学長（入試・広報担当），副学長（男女共同参画・社会連携担当），  
教養教育院長

### 5. 会議成立

構成員18名のところ，14名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

### 6. 議事録の確認

平成30年度第3回経営協議会（平成30年1月17日）の議事要旨の確認について説明があり，了承された。

### 7. 審議事項

#### （1）理事（非常勤）の給与について

（資料2）

学長から，2020年4月から予定されている高等教育の無償化・授業料減免及び給付型奨学金の拡充の支援対象要件の1つとして，外部人材の理事への任命があり，その対応のために，理事（非常勤）の給与について一部改正することについて説明があり，審議の結果，原案どおり了承され，役員会に付議することとした。

#### （2）2019年度学内予算編成方針（案）について

（資料3）

理事（教育・財務担当）から，2019年度学内予算編成方針（案）について説明があり，審議の結果，原案どおり了承され，役員会に付議することとした。

なお，委員から次の意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 戦略経費の配分の項目の立て方は自由なのか，何か制約はあるのか。  
また，学長裁量経費の配分は，どのくらい柔軟にできるのか。

△： 戦略経費の配分は，文部科学省による制約はなく，大学の裁量となっている。学長裁量経費については，役員会の中で意見を交わしながら，決定しており，ある程度柔軟にできる。

教育戦略経費，研究戦略経費，国際戦略経費なども，当初は，学長戦略経費の中で実施していたが，定常的に実施する必要があると判断し，予算を区分した。

- ： 学生支援経費の割合が5%というのは、他大学と比べてどのようなものか。また、授業料免除について、審査基準は経済的な状況だけなのかそれとも成績も加味しているのか。
- △： 授業料免除については、国の方針があり、調査はしていないが、国立大学においては、その方針に沿った学内規則において実施している。授業料免除について、学内基準は経済的な状況と学業成績において審査している。  
これとは別に、自然災害により被災した場合の免除制度の他、卒業が見込まれる学生が経済的理由により、修学できない場合に支援する制度があり、これらの制度は経済状況をその要件としている。
- ： 大学として戦略的に実施しようとしていることが予算上にはっきりみえるようにすれば良いと思う。
- △： 戦略的経費が、それにあたる。就任してから、教育と研究の国際化を推進していくこと及び産業界との連携を強化して行くという戦略に基づき、予算配分を行ってきた。学生の海外派遣者数が700名程になったのも、教育戦略経費において支援してきたことの表れだと考えている。また、国際共著論文数が3割に達したのも、国際共同研究を支援してきた成果であり、戦略的に投資してきた結果が出てきている。

### (3) 平成31年度国立大学法人九州工業大学年度計画(案)について (資料4)

理事(教育・財務担当)から、平成31年度年度計画(案)について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

なお、学長から、3月末までに文部科学省に提出することとなるが、軽微な修正については一任いただきたい旨説明があり、了承された。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： 昨年度からの違いはあるのか。
- △： 6年の中期計画における年度計画のため、昨年度からの大きな違いはなく、着実に計画を進めて行きたい。
- ： 途中で計画を変更することは可能なのか。
- △： 変更することは可能ではあるが、かなり大変である。計画は、着実にできることを掲げており、目標を超えてさらに発展することを目指したい。
- ： 6年の中期計画を着実に実施していると考ええる。4年目の計画としては良好ではないかと思う。

### (4) 平成31年4月大学院改組に伴う学則の一部改正について (資料5)

総務課長から、平成31年4月大学院改組に伴う学則の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

## 8. 報告事項

### (1) 平成30年度教育職員評価の結果について

(資料6)

理事（教育・財務担当）から、平成30年度教育職員評価の結果について報告があった。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： 自己評価において、控え目・自信過剰な教育職員はいるのか。
- △： 控え目な方や自信過剰な方がいるが、評価の段階で客観的な評価になるように考慮しており、また、その結果を教育職員にフィードバックしており、結果に対して不服申立てができるようになっている。
- ： 評価に基づく業績給は、どの程度変動するのか。
- △： 評価は自分で目標設定をたてる方法ではなく、教育では大学院生を何人輩出したか、研究では論文数・サイテーションの数など、絶対評価で行っている。ただ、現在の方法では、業績給に大きな変動はないが、新年俸制においては、業績給を全体の3割に増やし、評価に基づく変動率を大きくする予定である。
- ： 対象はテニユアのみか。期限付き教育職員は対象外か。
- △： 対象は、テニユアのみで、期限付き教育職員は対象外である。期限付き教育職員については、別のテニユア審査基準に基づいて、審査している。
- ： 全ての教育職員の評価基準が同じであり、職階では評価区分の割合が異なるということであるが、助教・准教授においては、評価基準を教授に異なる基準とし、評価結果において特優がもっと出るようなメリハリの利いた基準にしてもよいのではないか。

### (2) 平成31年度九州工業大学入試状況について

(資料7)

副学長（入試・広報担当）から、平成31年度九州工業大学入試状況について報告があった。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員等)

- ： 女性志願者の割合は、2割弱ぐらいのようであるが、九大など他の工学部はどうか。また、女性志願者向けの広報はやっているのか。
- △： 他大学では、女性志願者の割合はもう少し低い。情報3類・工学4類など、試験科目において生物系があるため、他大学の工学部から見ると、高めである。AO入試との関連については、入学者がもう少し増えてこななければ分析できない状況である。

また、女性志願者向けの広報については、本学ウェブサイトを始め、冊子体でも広報を行っているが、もっと積極的に行っていききたい。

### (3) 110周年フォーラム等について

(資料8)

学長から、8月23日(金)に東京の大手町サンケイプラザにて開催予定の110周年フォーラムについて報告があった。

## 9. その他

### (1) 産学連携教育審議会について

理事(教育・財務担当)から、産学連携教育審議会について説明があった。その後、共同研究講座に取り組む以下の教育職員から、産学連携教育について説明があった。

①所属：工学研究院 電気電子工学研究系 システムエレクトロニクス部門  
中藤 良久 教授

紹介内容：「パナソニック共同研究講座(IoTシステム実装研究講座)の取り組み紹介」

説明後、外部委員からは、次の意見等をいただいた。

(○：学外委員，△：学内委員等)

○： スマート物流部門はどういった取組をしているのか。

△： 現場にある様々な課題について、(株)山九と共同研究を行う予定である。

また、平成30年度経営協議会が終了するにあたり、外部委員から、次の意見等をいただいた。

(○：学外委員，△：学内委員)

○： 海外の協定校との共同研究や産学連携を良く実施しており、年々進化している。また、優秀な卒業生を輩出しており、しっかり教育できている証拠ではないか。継続して教育研究活動に邁進してほしい。

○： 大学が活性化してきており、成果をもっと広報していいのではないか。

○： 国の政策に翻弄されることなく、着実に推進してほしい。

○： 地域を支える人材を育てることを着実に推進し、地域の発展に貢献してもらいたい。

○： 第3期の中期目標達成に向けて着実に推進していると思う。

○： 大学のプレゼンス・学長のプレゼンスが非常に高まっているように思う。様々なメディアにおいて大学名・学長名を良く聞くようになったように思える。また、組織は、スターを育てる必要があると考えおり、平等性に欠けるかもしれないが、大学が意思をもって、特定の教授等をスターに育てていくというような戦略もあってよいのではないか。例えば、学長賞等で、特定の教授等の社会プレゼンスを高めていくようなことし、様々な場所で発表する機会を設けていけば、スタープレイヤーになって行くのではないか。

△： もっと皆様方に理解いただけるように、大学の情報を発信していき

い。また、技術が社会を大きく変えてきており、変化した社会活動ともなう、新たな要請や期待に対応する技術がさらに生み出されていく時代がきている。新たな要請や時代の変化に対応する、学び続けるエンジニアを育成するために、柔軟に対応していきたい。

(2) キャンパス全面禁煙宣言について (資料9)

学長から、キャンパス全面禁煙宣言について説明があった。

(3) 平成31年度経営協議会の開催日程について (資料10)

総務課長から、平成31年度の経営協議会の開催日程について説明があった。